

## 第3学年 国語科学習指導案

### 1. 単元名・題名

物語を読んで、しょうかいしよう  
「モチモチの木」

### 2. 指導の考え方

#### ○ 子どもの実態

本学年の子どもたちは、「読むこと」に関するアンケートの結果から、全体としては「読むこと」の学習に興味・関心を持って取り組んでいるということが分かった。一方で「読むこと」が嫌い・少し嫌いだと答えた子どももおり、「読むこと」を苦手と感じている子どももいることが分かった。このことから苦手と感じている子どもたちに対する個別の支援や、「読むこと」の楽しさを味わえる指導が必要であると考えられる。また、書き込みの際に「読み方の種」を使うことについては、できると答えている子どもが少ない。これは、授業の中で「読み方の種」を習得・活用する指導が不十分であったことが原因としてあげられる。交流場面で「読みの3点セット」を使うことを意識しながら発表することについては、これまでの学習の中で3点セットをきちんと揃えて発表できる子どもが少しずつ増えてきている。一方で、苦手と感じている子どもや、できていないと答えている子どもが多い。

これまでに、「きつつきの商売」や「海をかつとばせ」の学習で、登場人物の性格や気持ちの変化などを想像して読み取る学習をしてきた。その中で、中心文に対する問いかけをして、その答えを書くことを経験し、板書を見ながら本時を振り返り、まとめを書くことにも取り組んできた。また、場面と場面を比べて読む、会話を読むなどの「読み方の種」を活用しながら自分の読みをつくる学習をしている。また、自分の読みをつくる際に中心文や大切なことばに着目させ、書き込みの視点を明らかにすると、答え・証拠・理由の「読みの3点セット」を意識することができるようになってきている。

#### ○ 教材の価値・特質

本教材は、夜のモチモチの木を怖がったり、一人で外に出ることを怖がったりしていた豆太が、急病で苦しむじさまのために勇気を出して、夜のとうげ道を走って助けを求めに行くようになる姿、そして、モチモチの木に灯がともるのを目にした姿が描かれた物語である。場面の移り変わりに注意しながら登場人物の気持ちを想像して読むことに適した教材である。

文章構成の特質としては、それぞれの場面のはじめに一行空きがあったり、見出しがついていたりして、全体で5つの場面から構成されていることが分かりやすい。1・2場面では、豆太のおくびょうな様子、3・4・5場面では、霜月二十日のばん以降に起きた出来事が時系列に沿って描かれている。そこで、各場面での気持ちを読み取り、場面の移り変わりを読むことができる。

文章表現の特質としては、語り手が自分の思いを重ねながら語っていくようになっており、文末表現に特徴がある。そのため、語り手の豆太に対する見方が分かりやすいという特質がある一方で、豆太を主語にした叙述が少なく、豆太の言動から心情をとらえにくい部分もある。その中で、言葉をつないで読んだり、場面と場面をつないで読んだりすることで、豆太の人物像を想像することができる教材である。

#### ○ 指導にあたって

はじめに、題名から疑問をもち、冒頭の文章から豆太のおくびょうな様子がどう書かれているのかを読み、題名と冒頭をつないで「モチモチの木をこわがっている豆太はおくびょうな子どもなのだろうか。」という読みのめあてを生み出す。

次に、読みのめあてに沿って全文を読み、豆太のおくびょうな様子の変化や気持ちの変化が分かることをとらえさせ、豆太が1の場面以降もおくびょうな子どもなのかどうか予見を書きまとめる。そして、豆太の人柄や気持ちがよく分かるところはどこかを考え、中心文に対する問いかけをつくり学習計画を立てる。

読み深め・読み確かめでは、各場面での中心文に対する問いかけについての答えを書き込むこと【書くこと①】から取り組む。その書き込みをもとに、場面をつないで読む、くり返しを読む「読み方の種」を活用したり、音読や隣同士の対話をしたりして【交流】し、豆太の人柄や気持ちについて読み深め・確かめていけるようにする。そして、【書くこと②】で読み深め・確かめたことをまとめ、その際に大切にしたことばや活用した「読み方の種」も明らかにしてまとめるようにする。

最後の読みのまとめ・読み方のまとめでは、これまでの読みを振り返り、豆太の人柄や気持ちについてまとめる。そして、ことばの大切さに気付き、考え、発見し、確かにしていくために習得・活用した言葉をつないで（比べて）読む、場面と場面をつないで読む、接続語を読むなどの「読み方の種」をまとめる。また、同じ作者の別の作品を、登場人物の人柄に気を付けながら読み、紹介する活動に取り組む。

### 3. 単元の目標

- おくびょうな豆太が大好きなじさまを助けるために勇気を出すことができるようになった言動から、様子や気持ちを考え、豆太の人柄を読み取ることができる。
- 言葉をつないで（比べて）読む、場面と場面をつないで読む、接続語を読む「読み方の種」を習得・活用し、書く活動や交流活動を通してことばの大切さに気付き、考え、発見し、確かにすることができる。

4. 学習計画 (全15時間)

学習過程	時	主な学習活動と内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読み方の種」</li> <li>☆大切にする言葉</li> </ul> <p>指導上の留意点・言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【書くこと①】の観点と手だて</li> <li>△【交流】の観点と手だて</li> <li>□【書くこと②】の観点と手だて</li> </ul>
読みのめあて	1	<p>1 単元名・リード文，題名と冒頭をつないで読みのめあてを生み出す。</p> <p>(1)単元名とリード文を読み，学習の見通しをもつ。</p> <p>(2)題名から考えたことや疑問に思ったことを出し合う。</p> <p>(3)冒頭を読み，登場人物や題名の意味について考える。</p> <p>(4)読みのめあてをつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉ははずして読む</li> <li>☆全く</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題名から気付いたこと，疑問に思うことを書かせる。</li> <li>○ 題名までで出た疑問に対する答えが分かる文にサイドラインを引かせ，登場人物や題名について考えさせる。</li> <li>△ 語り手が豆太をおくびょうだと思っている叙述をつなげるようにする。</li> <li>□ 書き出しを与えたり，題名を読んだときの疑問に戻ったりして読みのめあてを書きまとめることができるようにする。</li> </ul>
<p>[読みのめあて]</p> <p>モチモチの木をこわがっている豆太はおくびょうな子どもなのだろうか。</p>			
予見	2 3 4	<p>1 読みのめあてに沿って全文を読み通し，あらすじをまとめる。</p> <p>2 予見を書きまとめる。</p> <p>3 個人の予見を交流し，予見を方向付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一行空きを読む</li> <li>・言葉をつないで読む</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 難語句の意味や漢字の読み方については，教師が補説する。</li> <li>○ 一行空きや見出しに着目させ，いくつかの場面で構成されているのか確認させる。</li> <li>○ 予見の証拠となる文やことばに線を引き，理由付けさせる。</li> <li>□ 必要に応じて，書き出しを与えるようにする。</li> </ul>
<p>[予見]</p> <p>豆太は，おくびょうな子どもだった。しかし，じさまのために走るほど勇気ややさしさをもった子どもだ。</p>			
学習計画	5	<p>1 予見の共通点や相違点，曖昧な点等を明らかにし，中心文を基に読み確かめていく計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ 予見を事前に分析し，グループに分けて発表させて，予見を方向付ける。</li> <li>○ 中心文を決めて，中心文のことばに対する疑問をもとに問いかけをつくる。</li> </ul>
<p>[学習計画]</p> <p>① 「やい，木い，モチモチの木い，実い落とせえ。」と言っている豆太の様子から豆太がどんな子なのか読み確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうして夜になると，豆太はもうだめなのだろう。</li> </ul> <p>② はじめっからあきらめて，よいの口からねてしまった豆太の様子から豆太がどんな子なのか読み確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうしてはじめっからあきらめているのだろう。</li> </ul> <p>③ なきなき走った豆太の様子から豆太がどんな子なのか読み確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうして「なきなき」走ったのだろう。</li> <li>・ 何がこわかったのだろう。（1回目と2回目を比べる）</li> </ul> <p>④ モチモチの木に灯がついたのを見た豆太の様子から豆太がどんな子なのか読み確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 灯がついたのを見たとき，何を考えていたのだろう。</li> </ul> <p>⑤ じさまを起こす豆太の様子から豆太がどんな子なのか読み確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうしてまたじさまを起こすのだろう。</li> </ul>			

読み深め・読み確かめ	6	<p>「やい、木い、モチモチの木い、実い落とせえ。」と言っている豆太の様子から豆太がどんな子なのか読み確かめる。</p> <p>1 豆太はどうして夜になるとだめなのか考えて書き込む。 2 豆太の様子や気持ちについて話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>昼間はいばってえらそうにしているけど、夜になるとモチモチの木をお化けと思いこんでしまうおくびょうな子ども。</p>	<p>・言葉をつないで読む ☆昼間は ☆夜になると</p>	<p>○ 昼間の様子と夜の様子を比べさせることで、豆太が夜に怖さを感じていることを捉えられるようにする。 △ 「やい、木い、モチモチの木い、実い落とせえ。」を音読させて、昼間は強気な豆太の様子が分かるようにする。 □ 読み確かめた豆太の心情、使った読み方や大切にしたことばを板書を使って振り返り、「今日の学習で」に書かせる。</p>
	7	<p>はじめっからあきらめて、よいの口からねてしまった豆太の様子から豆太がどんな子なのか読み確かめる。</p> <p>1 豆太はどうしてはじめっからあきらめたのか考えて書き込む。 2 豆太の様子や気持ちについて話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>本当はモチモチの木を見たいけど、夜一人で外に出ることはこわいと思い込んでいるおくびょうな子ども。</p>	<p>・ダッシュを読む ☆「とつてもだめだー」 ☆「昼間だったら、見てえなあ。」 ・言葉を比べて読む ☆もぐりこむ</p>	<p>○ 前の場面でもらえた、夜になると怖がる豆太のおくびょうな様子を想起させ、つないで考えられるようにする。 △ 会話を音読させて、ダッシュに込められた豆太の気持ちを考えられるようにする。 □ 読み確かめた豆太の心情、使った読み方や大切にしたことばを板書を使って振り返り、「今日の学習で」に書かせる。</p>
	8	<p>なきなき走った豆太の様子から豆太がどんな子なのか読み確かめる。</p> <p>1 豆太は何がこわくて、どうしてなきなき走ったのか考えて書き込む。 2 豆太の様子や気持ちについて話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>いたさや寒さ、こわさをがまんして、じさまのために必死に走る勇氣のある子ども。</p>	<p>・接続語を読む ☆でも ・言葉ははずして読む ☆もつと</p>	<p>○ 「いたくて」「寒くて」に着目させ、はじめの「こわかった」で何を怖がっていたのか捉えられるようにする。 △ 一つ目、二つ目の「なきなき」「こわかった」の違いを比べながら交流できるようにする。 □ 読み確かめた豆太の心情、使った読み方や大切にしたことばを板書を使って振り返り、「今日の学習で」に書かせる。</p>
	9	<p>モチモチの木に灯がついたのを見た豆太の様子から豆太がどんな子なのか読み確かめる。</p> <p>1 豆太はモチモチの木に灯がついているのを見たとき何を考えていたか考えて書き込む。 2 豆太の様子や気持ちについて話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>少しでも早くじさまの所へ行ってあげたい、助けたいと思う優しい子ども。</p>	<p>・場面を比べて読む ☆医者様のてつだいを、…</p>	<p>○ 医者のかしを足でドンドンけとばしている豆太の姿に着目させ、豆太の心配する気持ちをとらえさせる。 △ 心配する豆太の様子と、落ち着いている医者様の様子を比べるように対話させる。 □ 読み確かめた豆太の心情、使った読み方や大切にしたことばを板書を使って振り返り、「今日の学習で」に書かせる。</p>

	<p>じさまを起こす豆太の様子から豆太がどんな子なのか読み確かめる。</p> <p>1 豆太はどうしてまたじさまを起こすのか考えて書き込む。 2 豆太の様子や気持ちについて話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>おくびょうなところもあるけど、勇気をもって人のためにやるべきことはできる優しい子ども。</p>	<p>・場面をつないで読む ☆「じさまあ。」と、しょんべんにじさまを起こしたとさ。</p>	<p>○ 豆太がじさまに言われてうれしかったところに線を引かせて、じさまの話聞く豆太の気持ちを想像させる。 △ じさまや豆太の会話文を音読させ、これまでの場面と比べさせる。 □ 読み確かめた豆太の心情、使った読み方や大切にしたことばを板書を使って振り返り、「今日の学習で」に書かせる。</p>
読み・読み方のまとめ	<p>1 読みのまとめをする。 (1) 人柄がよく分かるところを音読する。 (2) 豆太はどんな子(人がら)だったのか話し合う。 (3) 題名について話し合う。</p>		<p>○ おくびょうだった場面と勇気のあるやさしい子だと分かった場面をつないで答え(読みのまとめ)を書かせる。 ○ 豆太やじさまの人柄について、どう思ったのか、証拠や理由をはっきりさせながら発表させる。</p>
	<p>11 12 13 14 15</p> <p>2 「読み方の種」のまとめをする。 ・言葉を比べて読む ・くりかえしを読む ・場面をつないで読む ・場面を比べて読む</p> <p>3 他の物語を紹介する。 (1) 斎藤隆介さんの他の作品を選んで読む。 (2) 読んだ作品を紹介する。</p>		<p>○ 読んだ物語を紹介するときは、自分の好きな登場人物を中心に紹介させる。</p>

# 第3学年 組 (公開授業①)

## 5. 本時 (7/15) 読み深め・読み確かめ

### 6. 本時の目標

- モチモチの木に灯がとものを見ることをはじめからあきらめて、よいの口から寝てしまった豆太の様子や気持ちを読み、豆太がどんな子だったかを読み確かめることができる。
- ダッシュを読む、場面をつないで読むなどの「読み方の種」を習得・活用し、書く活動や交流活動を通して、「はじめっから～ねてしまった。」の言葉のもつ大切さに気づき、考え、発見し、確かにすることができる。

### 7. 本時指導の考え方

前時まで、子どもたちは、昼のモチモチの木に対する豆太の様子と夜のモチモチの木に対する豆太の样子の違いを比べながら、豆太のおくびょうぶりを読み取っている。

本時は、じさまの話聞いて、モチモチの木に灯がとものを見たいけどこわくてはじめからあきらめてしまう豆太の言動から豆太自身が自分のことをおくびょうと思込んでいることを読み確かめていく学習である。

そのために、まず本時場面の音読をして「霜月二十日のぼん」の出来事を確かめる。次に、中心文を確認し、中心文への問いかけを豆太の気持ちによりそって解決することで、豆太がどんな子どもかを読み取ることができるという見通しをもつ。

次に、書き込みの視点にそって書き込む。書き込みの前に、豆太があきらめたことや、「はじめっから」「よいの口から」「もぐりこむ」などおくびょうぶりが分かる言葉の意味を全員で話し合う。また、豆太の言葉や様子が分かる言葉をつないで考えると書き込みができそうだという見通しを持たせる。書き込みの視点は、①「どうしてはじめっからあきらめているのだろう。」である。

そして、書き込みをもとに「はじめっからあきらめた」豆太の気持ちを話し合う。その際「もぐりこむ」を似た言葉「入る」と比べて豆太の様子を想像したり、「とつてもだめだー。」のダッシュの意味を考えたりして、はじめからあきらめている豆太の気持ちを交流する。そして、豆太が挑戦もしないでモチモチの木から逃げていることを読み確かめ、豆太が自分自身をおくびょうと決め付けていることをとらえさせたい。

最後に、本時で読み深めた「自分はおくびょうで勇気がない子どもだ。」と思込んでいる豆太のことを、「はじめっからあきらめた」理由の板書や書き込みを手がかりにして書きまとめさせる。

考えのまとまらない児童には、板書の中のキーワードや赤チョークでつないだ箇所などを手がかりにして書くよう個別に支援していく。

### 8. 板書計画

物語を読んで、しようかいしよう

モチモチの木

齋藤 隆介作

学習めあて

はじめっからあきらめてよいの口から寝てしまった豆太の様子や気持ちから、豆太はどんな子どもなのか読み確かめよう。

挿絵

霜月二十日のうしみつにやあ、モチモチの木に灯がともの。  
山の神様の祭り  
おらもおまえのおともも見た  
一人の子もしか見ることほできねえ  
それも勇気のある子どもだけだ

見たい

「それじゃあ、おらは、とつてもだめだー。」

豆太は、ちっちゃい声で、なきまごうに言った。

こわい

「昼間だったら見てえなあー」

じさまもおとも見たんなら、自分も見たかった

とんでもねえ話だ。ふるふるだ。

おしんごをもらしちまいそつだー。

ダッシュを読む

「とつてもだめだー。」

ふるふる、夜なんて考えただけでも、おしんごをもらしちまいそつだー。

見たいけど自分には勇気がない。むりな子。自分はおくびょうな子。

モチモチの木を見たくない。

こわくてたまらない。

入る

「モチモチの木を見たい。」

じさまのたばこくさいむねん中に鼻をおしつけてよいの口から寝てしまった。

豆太は、真夜中に一人モチモチの木を見るなんてとてできない、自分はおくびょうで勇気がないと思込んでいる子どもだ。ふとんに「入る」ともぐりこむをくらべると、モチモチの木のことなんて考えたくもないほどこわいということが分かった。自分のことをおくびょうだと決めつけないで山の神様のお祭りを見たいのになと思っけれど、ほくもこわくて見られないかもしれないなあ。

9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○書くこと① △交流 □書くこと② ☆「読み方の種」
<p>1 本時のめあてを確認する。                      (1) 前時までを想起する。                      (2) 本時場面を音読し、中心文を確認する。</p>	<p>※ 掲示物をもとに、前時までの学習を振り返らせる。                      ※ 中心文に対する問いかけを確認する。                      ※ まとめで豆太がどんな子どもなのか書けるという1時間の学習の見通しを持たせておく。</p>
<p>〔学習のめあて〕 はじめっからあきらめてよいの口からねてしまった豆太の様子や気持ちから豆太はどんな子どもなのか読み確かめよう。</p>	
<p>2 書き込みの視点に沿って書き込みをする。【書くこと①】                      (1) 「霜月二十日のぼん」のあらすじをつかむ。                      ・霜月二十日のぼんにモチモチの木に灯がともるとい                      じさまの話                      ・「とってもだめだあー」と言った豆太の気持ち                      (2) 中心文の中のことばの意味を考える。                      ・あきらめたこと                      ・「はじめっから」の意味</p>	<p>○ 何がだめなのか、前時までの場面の豆太はおくびょうで甘えん坊の子どもだということや夜のモチモチの木の様子とつなげて考えさせ、書き込みの手がかりとなるようにする。                      ○ 「よいの口」の時間帯について補足し、早い時間からねてしまった豆太の気持ちを想像できるようにする。                      ○ 「はじめっから」とはいつからなのか考えさせ、自分は臆病だという思いこみにつなげられるようにする。</p>
<p>〔書き込みの視点〕                      ○ どうしてはじめっからあきらめたのだろう。 →</p>	<p>〔見通しのもたせ方〕                      豆太の言動が分かる叙述を読む。                      → 前の場面の豆太の様子とつないで読む。</p>
<p>(3) 中心文に対する書き込みをする。                      ・中心文の中のことばを考えたり、前の場面の様子や豆太のことばをつないで考えると、書き込みができそうだと見通しをもつこと。</p>	<p>○ 書き込みの際には答え・証拠・理由付けの3点セットを意識するように指示する。                      ☆</p>
<p>「…とってもだめだあー」「…見てえなあー。」                      …ダッシュを読む。                      もぐりこむ ↔ 入る …言葉を比べて読む。</p>	
<p>3 書き込みをもとに話し合う。                      (1) よいの口からふとんにもぐりこんでいる様子について話し合う。                      (2) どうしてはじめっからあきらめてしまったのかを交流する【交流】。</p>	<p>△ どうしてはじめっからあきらめたのか、答え、根拠、理由付けの3点セットが明確になるように、分かりやすく板書していく。                      △ 「読み方の種」を使った読み取りであることを板書に位置付ける。                      △ ふとんにもぐりこむと入るを比べて読むことで、モチモチの木のことを考えようとしてもしない豆太の臆病ぶりや思い込みに気付かせる。                      △ じさまの話聞いたときの豆太のつぶやきを音読させて、ダッシュに込められた、見たいけれどできないと思ひ込む豆太の気持ちを想像させる。                      □ 読み確かめたことと、使った「読み方の種」、どの言葉を大切にしたいかを入れて書きまとめられるよう、書き出しを与える。また、豆太をどう思うか感想も書き入れられるよ</p>
<p>【はじめっからあきらめたのはどうしてだろう】                      ・自分ではできない、おくびょうだと決めつけているから。                      ・じさまは勇気のある子どもだけ見ることができるといったけど、自分には勇気はないと思っているから。                      ・冬の真夜中にモチモチの木をたった一人で見るなんて考えたくもないほどこわがっているから。                      ・考えただけでもぶるぶるふるえるくらいだから、ぜったいむりだと自分で思いこんでいるから。</p>	
<p>4 読み確かめたことと、読み方を書きまとめる【書くこと②】</p>	<p>〔学習のまとめ〕 豆太は、真夜中に一人でモチモチの木を見るなんてとてもできない、自分はおくびょうで勇気がないと思ひ込んでいる子どもだ。ふとんに「入る」と「もぐりこむ」をくらべると、モチモチの木のことなんて考えたくもないほどこわいということが分かった。自分のことをおくびょうだと決めつけずに山の神様のお祭りを見たらいいのと思うけれど、ぼくもこわくて見られないかもしれないなあ。</p>

# 第3学年 組 (公開授業②)

## 5. 本時 (8/15) 読み深め・読み確かめ

### 6. 本時の目標

- 急病のじさまを助けたいと思って、寒くて痛い中を必死にふもとまで走る豆太の様子や気持ちを読み取り、豆太がどんな子だったかを読み確かめることができる。
- 接続語を読む、言葉ははずして読むという「読み方の種」を習得・活用し、「なきなき」「こわかった」「でも」「もっと」の言葉のもつ大切さに気付き、考え、発見し、確かに行うことができる。

### 7. 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、豆太のおくびょうな様子や気持ち、モチモチの木に対する思いを読み取り、豆太のおくびょうぶりを読み確かめてきた。

本時は、体調が悪くなったじさまのために、おくびょうな豆太が勇気を出してふもとまで走り下りる場面である。ここでは、これまでの場面と比べながら豆太の様子や気持ちを読み取り、豆太が本当は勇気のある子だということを読み確かめる。

そのために、まず、中心文と中心文への問いかけを想起し、それらを解決することでおくびょうな豆太の様子はどう変わったのか読み確かめられることを確認する。

次に、観点に沿って書き込みをする。書き込みの前には、前の場面でのおくびょうな豆太の様子、本時場面でのじさまや豆太の様子をとらえ、場面や言葉をつないで読むと書き込みができそうだという見通しをもたせるようにする。また、子どもたちに一つ目と二つ目の「なきなき」「こわかった」には違いがあることを気付かせるために、話し合いの間に隣同士による対話をさせる。その中で「でも」や「もっと」があることに着目させ、二つには違いがあるということをとらえられるようにする。

書き込みの視点は、①何がいたくて、どうして寒かったのか、②どうして「なきなき走った」のか、③何が「こわかった」のかの3点である。

そして、書き込みをもとに、①から③について順番に話し合う。まず、何がいたくて、どうして寒かったのか、同じ場面の豆太の様子(はだし、ねまきのまんま)とつないで話し合う。次に、一つ目の「なきなき走った」理由と、何が「こわかった」のかについて話し合う。そして、二つ目の「なきなき走った」と「こわかった」を読む際には、「でも」や「もっと」に着目させ、大好きなじさまのために勇気を出して必死に走った豆太の様子をとらえられるようにする。その際、豆太にとってじさまがどんな存在だったのかを発問して考えさせ、いかに大切な存在だったのかということに気付くことができるようにする。

最後に、本時で読み確かめた勇気を出した豆太の様子や気持ち、大切に言葉について板書を手がかりにして書きまとめさせる。

考えのまとまらない子どもには、板書やキーワード、赤チョークでつながれた箇所などを手がかりにして書きまとめるよう支援していく。

### 8. 板書計画

物語を読んで、しようかいしよう

モチモチの木

斎藤 隆介 作

学習のめあて

「なきなき走った」豆太の様子から、豆太がどんな子なのか読み確かめよう。

挿絵①

② 豆太は見た

「じさまあつ。」

「じさまつ。」

「医者様をよばなくっちゃ。」

豆太は、：表戸を体でふつとばして走りだした。

ねまきのまんま。

はだしで。

半道もあるふもとの村まで。

一面の真っ白い霜で、雪みただった。

霜が足にかみついた。

足からは血が出た。

③ 豆太は見た

「じさまあつ。」

「じさまつ。」

「医者様をよばなくっちゃ。」

豆太は、：表戸を体でふつとばして走りだした。

ふるふる、夜なんて考えただけでも、：

豆太は、なきなき走った。

夜で、こわかったからなあ。

④ 大好きなじさまのしんでしまうほうが、じさまが死ぬのがこわい。

⑤ こわかったから、言葉をつないで読む。

⑥ じさまが死ぬのがいやだから

・じさまが死ぬのがいやだから

・じさまが死ぬのいやだから

・じさまが死ぬのいやだから

⑦ 足から血が出たから

・霜がおりて寒かったから

・夜で、こわかったから

⑧ じさまは、いたさや寒さ、こわさをがまんして、じさまのために必死に走る勇気のある子どもだった。はじめの「こわかった」と「もっとこわかった」をくらべて読むことで、豆太にとってじさまはとても大切な人だということが分かった。

⑨ 学習のまとめ

挿絵②

9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○書くこと① △交流 □書くこと② ☆「読み方の種」
<p>1 本時のめあてを確認する。 (1)前時までを想起する。 (2)本時場面を音読し、中心文を確認する。</p> <p>(学習のめあて)「なきなき走った」豆太の様子や気持ちから、豆太がどんな子なのか読み確かめよう。</p>	<p>※ 掲示物をもとに、前時までの学習を振り返らせる。 ※ 中心文に対する問いかけを確認する。 ※ 学習のまとめにどう書けばよいか1時間の学習の見通しをもたせておく。</p>
<p>2 書き込みの視点に沿って、書き込みをする【書くこと①】。 (1)「豆太は見た」のあらすじをとらえる。 ・じさまがはらいたになって苦しんでいる様子をとらえること。 ・豆太がねまきのまま、はだしで外へ出ていったこと。 (2)「なきなき」走るとはどういう様子か考える。 (3)一つ目と二つ目の「こわかった」「なきなき」は同じなのか隣同士で対話する。</p>	<p>○ 前場面での豆太の様子を想起させ、夜一人になるのをこわがっていたことをとらえさせ、本時でのこわさとつなげられるようにする。 ○ 「なきなき」とはどういう様子か挿絵とつないで想像させたり、繰り返されていることに気付かせたりして、書き込みの手がかりとなるようにする。 ○ 書き込みの際には答え・証拠・理由付けの3点セットを意識するよう指示する。</p>
<p>[書き込みの視点] ① 何がいたくて、どうして寒かったのだろう。 ② どうして「なきなき走った」のだろう。 ③ 何が「こわかった」のだろう。</p>	<p>(見通しのもたせ方) →豆太の格好を挿絵や叙述から読む →じさまの様子が分かる叙述を読む →接続語を読む、場面をつないで読む</p>
<p>(4)中心文に対する書き込みをする。 ・豆太の様子を前の場面や中心文までの様子をつないで考えると書き込みができそうだと見通しをもつこと。</p> <p>3 書き込みをもとに話し合う。 (1)豆太は何がいたくて、寒かったのか話し合う。 (2)豆太はどうして「なきなき」走ったのか、何が「こわかった」のか話し合う。(一つ目) (3)豆太は何が「もっと」「こわかった」のか、どうして「なきなき」走ったのか交流する【交流】。(二つ目)</p> <p><b>【豆太は何がこわかったのか】</b> 一つ目は夜一人で出ることが怖かったが、二つ目は、そんなことよりじさまが死ぬことが怖かった。 <b>【豆太はどうしてなきなき走ったのか】</b> 一つ目のときは、足の痛さや体の寒さ、夜一人で出ることが怖くてなきなき走っていた。二つ目のときは、そんなことより大切なじさまが死んでしまうことがこわくてなきなき走っていた。</p>	<p>☆ 「でも」…接続語を読む 「もっと」…言葉ははずして読む</p> <p>△ 豆太がどうして「なきなき」走ったのか、何が「こわかった」のか、それぞれの答え・証拠・理由付けの3点セットが明確になるように、構造的に板書していく。 △ 「読み方の種」を適宜板書に位置づける。 △ 豆太にとってじさまがどんな存在だったのか考えさせる発問をして、じさまが死ぬということが豆太にとってどういう意味をもつのか考えさせる。 △ 交流の際には、一つ目と二つ目の「なきなき」「こわかった」について自分が書いた答えを比べさせながら、二つ目の「こわかった」「なきなき」に込められた豆太の気持ちについて考えられるようにする。</p>
<p>4 読み確かめたことと、「読み方の種」を書きまとめる【書くこと②】。</p> <p>(学習のまとめ) 豆太は、いたさや寒さ、こわさをがまんして、じさまのために必死に走る勇気のある子どもだった。はじめの「こわかった」と「もっとこわかった」をくらべて読むことで、豆太にとってじさまはとても大切な人だということが分かった。</p>	<p>□ 読み確かめたことと、使った「読み方の種」、どの言葉を大切にしたらかを入れて書きまとめられるように書き出しを与える。</p>



